

都市再生整備計画 事後評価シート

岡町駅東地区

令和7年2月

大阪府豊中市

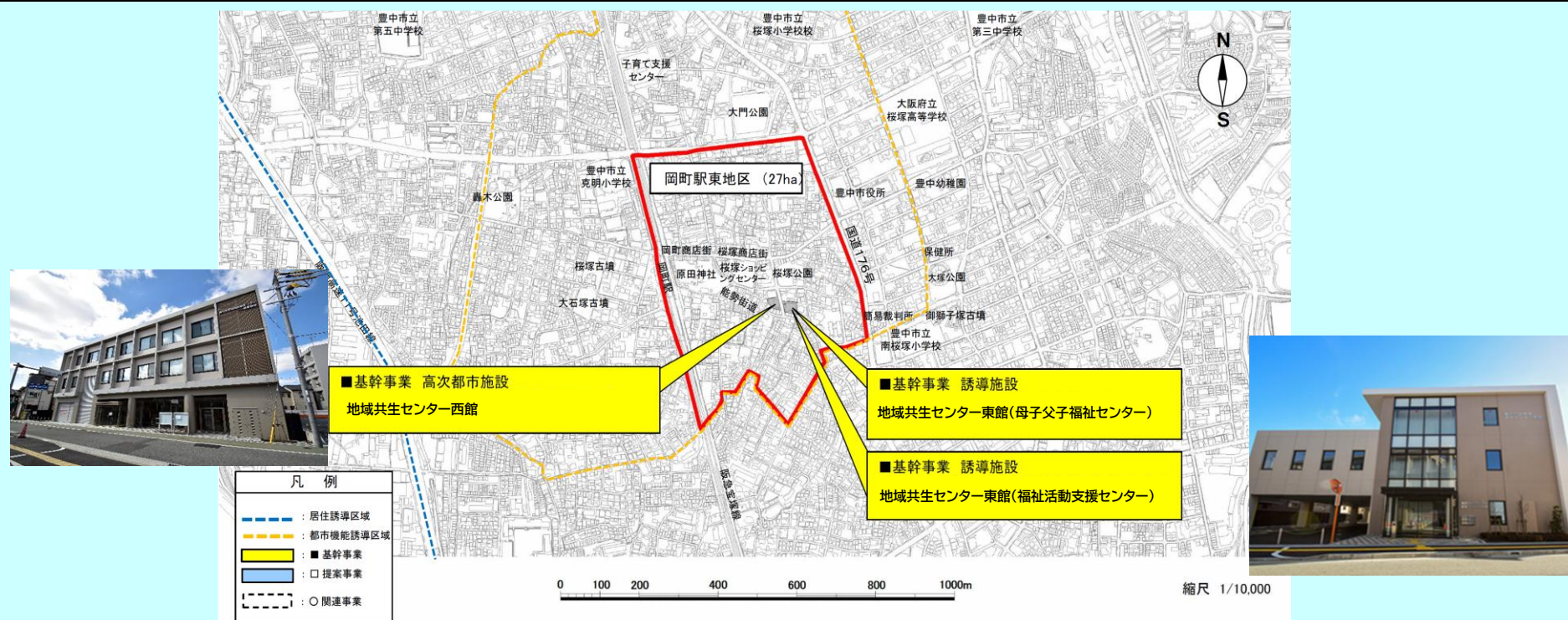
様式2－1 評価結果のまとめ

都道府県名	大阪府		市町村名		豊中市		地区名		岡町駅東地区			面積		27ha		
交付期間	令和1年度～令和5年度		事後評価実施時期		令和6年度		交付対象事業費		756.4百万円		国費率	50%				
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名													
			基幹事業	高次都市施設(地域交流センター)／誘導施設 社会福祉施設(福祉活動支援センター)／誘導施設 社会福祉施設(母子父子福祉センター)												
			提案事業	なし												
	当初計画から削除した事業	基幹事業	なし				削除/追加の理由				削除/追加による目標、指標、数値目標への影響					
		提案事業	なし													
	新たに追加した事業	基幹事業	なし													
		提案事業	なし													
	交付期間の変更	当 初	令和1年度～令和5年度			交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響										
変 更		変更なし														
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指 標		単位	従前値		目標値		数 値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期			
				基準年度		目標年度	モニタリング	評価値								
	指標1	施設利用者数	人	64,275	H29	77,000	R5	8,753	77,045	○	あり	● 高次都市施設である「地域共生センター西館(旧福祉会館・桜塚会館)」は、夜間の利用が少なく、利用者数は目標に達しなかった。一方、「地域共生センター東館」は、地域組織の催しのみならず、地域住民が気軽に立ち寄れる交流スポットとなったことから、目標を超える来場があった。 また、誘導施設である「福祉活動支援センター」と「母子父子福祉センター」においては、相談窓口やボランティア活動スペース等の利用者数が増加した。	令和7年4月			
	指標2	施設利用率(福祉サービスの充実)	%	49.7	H29	70.0	R5	59.3%	70.1%	○	あり	● 「地域共生センター西館」は、夜間の利用率が低かったため、全体の利用率も低くなった。一方、新たに入居した「中央地域包括支援センター」は、高齢者や家族の相談等での来館が多くあり、利用率が高くなった。 また、福祉活動支援センターは、「ファミリーサポートセンター」「ボランティアセンター」への市民の来館が多くあり、目標を上回る高い利用率となった。	令和7年4月			
	指標3	地域組織の施設利用回数(地域コミュニティの活性化)	回	40	H29	80	R5	69	131	○	あり	● 高次都市施設「地域共生センター西館」では、目標を超える、131回の利用回数があった。	令和7年4月			
											なし					
	3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指 標		単位	従前値		目標値		数 値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期		
				基準年度		目標年度	モニタリング	評価値								
その他の数値指標1		—														
その他の数値指標2	—															
4)定性的な効果発現状況	福祉に関する機能が集約されたことにより、関係団体が連携しやすくなった。各種相談窓口が整い、分野を越え複合的な課題を持つ相談者を、館内で適切な機関につなぐことができるようになった。西館のロビーでは、文化活動や福祉に関する相談・講習会、近隣の公園や商店街の利用者が立ち寄る交流スペースとなった。															
5)実施過程の評価	実施内容				実施状況				今後の対応方針等							
	モニタリング	指標の算定	都市再生整備計画に記載し、実施できた						継続的に事業効果を確認するため、一定期間指標のモニタリングを行う。							
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した				●									
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった													
	住民参加プロセス	中塚塚自治会 岡町・桜塚商店街	都市再生整備計画に記載し、実施できた				●		令和6年10月、地域の「秋まつり」に合わせて、「神輿」を西館ロビーに展示したことにより、多くの地域住民の来場があった。地域住民や地元商店街と協力して、今後も「夏まつり」などを実施し、地域住民が集いくなる施設となるように取り組む。							
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した													
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった													
持続的なまちづくり体制の構築	おかまち・まちづくり協議会	都市再生整備計画に記載し、実施できた				●		令和6年12月に豊中市と協議会で役割分担し、西館を地域資源として活用して「にぎわいづくり」に活かしていくことを検討した。今後も利用を増進し、持続的なまちづくりにつなげる。								
		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した														
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった														

様式2-2 地区の概要

豊中市岡町駅東地区都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標：本市の拠点福祉サービスを充実し、地域をつなぐ拠点づくり 目標１：福祉サービスの充実 目標２：地域コミュニティの活性化	施設利用者数	人	64,275	H29	77,000	R5	77,045	R6
	施設利用率(福祉サービスの充実)	%	49.7	H29	70.0	R5	70.1	R6
	地域組織の施設利用回数(地域コミュニティの活性化)	回	40	H29	80	R5	131	R6



まちの課題の変化	・施設が新設され、福祉に関する各種相談窓口が集約されたことにより、関係団体間の連携が強化され、分野を越えた複合的な課題を持つ相談者への支援力も強化し、福祉サービスが充実した。 ・「地域共生センター西館」では、131団体の地域組織の利用があり、文化活動や福祉に関する相談・講習会の実施や、近隣の公園や商店街の利用者が立ち寄る交流スペースとなり、コミュニティが活性化した。 ・本事業により福祉に関する複合拠点、地区会館が整備されたことにより、公共サービスの中心的拠点として必要な拠点の公共施設が整い、課題が解決した。 ・ただし、市民の利便性を向上するため、拠点の公共施設である地域共生センターを引き続き周知していく必要がある。
今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)	・地域共生センターに来訪する利用者の利用実態を継続的に把握していく。(施設利用者等のモニタリング、利用者アンケートの実施) ・地域共生センターに入居する関連団体間の連携を強化していくため、連絡会議を設け、施設運用を継続的に改善し、効果を維持して行く。(連絡会議の実施、施設運用の継続的な改善) ・市民の利便性を向上するため、地域共生センターの施設案内や施設内で開催するイベントなどを市広報紙・HPに記載したり、他の公共施設等でチラシを配架し、広報していく。地域イベントの開催などは商店街と連携し広報していく。(市広報紙・HP、チラシ等による広報)